



LONGIN

We create in Tokyo Japan since 2011

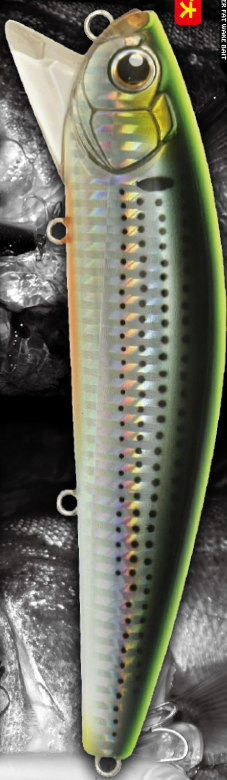
WEB MAGAZINE Vol.

25

72517-7
WAVEYBOO
SHIMANO FISHING EQUIPMENT

137mm 48g Floating

実寸大



対大型魚専用

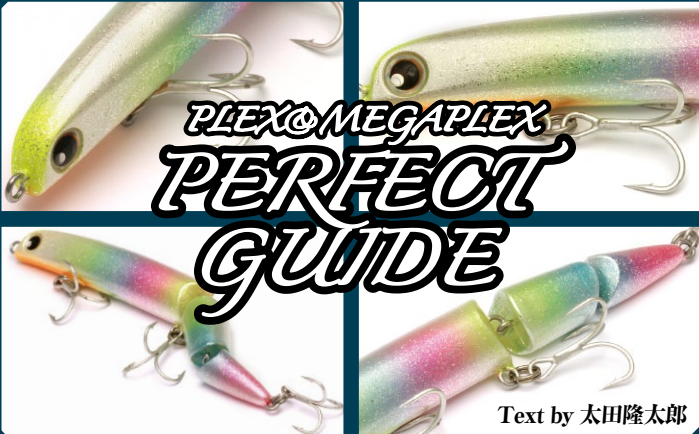
実寸大



HI-STANDARD

150mm 34g Floating

**LONGIN. がランカーハンターに贈る
2つの新たなルアーがこの秋新登場!**



PLEX@MEGAPLEX PERFECT GUIDE

Text by 太田隆太郎

ジョイントルアーというと、シーズンや使いどころが限られたルアーと思われがちだがそうではない。使い方を覚えれば、シーズン問わず強力な武器になるルアーだ。

バチ抜け専用ルアーではない!

ジョイント=バチ抜けのイメージが強いですが、プレックスもメガプレックスもバチ抜け専用ルアーという訳ではありません。どちらも表層に特化したものではなく、レンジコントロールがしやすく、年間を通して使える一歩踏み込んだシンキングペンシルとして製作しました。

どちらももちろんバチ抜け初期(底バチ)には絶大の効果を発揮しますが、それ以外のシーズンに使うことで、最大のポテンシャルを感じてもらえるルアーなのです。

プレックスの特性とは?

プレックスは着水してからピックアップするまでの間に、動き(アピール)が止まる事はありません。ジョイントのない1本形状でできたルアーには真

似できない、独自のアピール力がプレックス最大の武器です。三個の部品で構成された三連結ボディは、着水と同時にアクションをし始め、巻けば軽やかかつ派手なトリッキーアクション。巻かない釣り（ドリフト等）ではボディ全体を細かく振動させながら、連結部分がピコピコ動き続けアピールします（※是非、弊社 HP にある水中動画をご覧ください）。

プレックスの特性を挙げる上で欠かせない要因の一つに、ジョイントとは思えない飛距離があります。昔からジョイントルアー最大のデメリットに挙げられていたのが「飛ばない」という点です。連結されたボディーは風の抵抗を受け易く飛行姿勢が安定しない為、飛距離を出すことがとても難しいルアーなのは間違いありません。

しかし、最初に述べた通り、ジョイントルアーには絶大なアピール力が秘められています。そこでウェイトの配置と連結部分の割合を細かく細かく調整することで、ジョイントルアーとは思えないカッ飛びの飛距離を実現しました。

そして、もう一つジョイントルアーのデメリットとして大きな要因だった、「糸絡み」。プレックスシリーズはキャスト時やリトリーブなどアクションを加えた時、糸絡みというストレスを限りなく少なくした（ほぼトラブルはありません）設計に成功しました。今までのジョイントルアーには無かった「飛距離とトラブル」を完全網羅したストレスフリーのルアーになっています。

プレックスのトリッキーアクション

現行で販売されているジョイントルアーの、ジョイント部の構造の違いをご存知でしょうか？



ジョイント×3フックシステムにより絡みつくようにフッキングするため、バラしが激減！



広大なシャロー帯で表層を漂わせるようにタダ巻きしてヒット！ 複雑なアクションは遠くの魚も誘い出します。

多く見かけるのは、連結部分の繋目が2本のアイで繋がっているものだと思います。この作りは横フリは強くなりますが、横の動きだけに制限されてしまいます。プレックスシリーズは、1個のアイで連結されている為、横にも縦にも360°自由自在。制限が無いことで生まれるトリッキーアクションが、シーバスの捕食本能を刺激するのです。

動きの原動力についてももう少し詳しく解説させていただきます。3個の部品で作られたプレックスは、1番目のウェイトが仕込まれている一番大きい部分が「シンペン」の役割を果たし、シンペン特有のお

尻を大きく振る力が発生します。その動きに残りの2個の部分が連動して、プレックス特有の艶かしいトリッキーかつ、大きなハイピールアクションを生み出しているのです。

スローリトリブでは大きな幅広い横フリアクション。早巻きや流れの速いときは、ミノーのようなタイトアクションになることで、泳ぎが破壊することが無いため、様々なスピード（流速）に対応します。ですから、シャローからミドルレンジまで使い手の思うままに刻むことが可能です。

干潟などのシャローエリアから港湾など水深のあるポイントでも、ロッドの上げ下げとリトリブスピードで様々なレンジを攻略することが出来ます。

1本でもフックが掛ってしまえば、可動するジョイント部分が蛇のように絡み付くようにして残りのフックもフッキング！ ジョイントのフックシステムは掛った魚を逃がしません。

メガプレックスとプレックスの違い

ここまでは、ジョイントルアーの特徴などを解説しました。ここからはプレックス 85 mm 10g と、2014 年に発売されたメガプレックス 115mm 20g の違いを説明します。

どちらもロッド操作とリトリブスピードで全てのレンジを攻めることが可能なルアーです。しかし、ルアーに

は特に得意とするレンジというものがあります。プレックスが得意とする泳層は、ミドル～ボトム。それに対して 20g という重量があるにも関わらず、ボディ全体で水を絡めることで浮き上がりを強くしたメガプレックスは、表層～中層を攻めるのに向いています。

ベイトサイズに合わせて状況にマッチさせることで、釣果に差が出ることはもちろんですが、得意なレンジの違いで攻略できる幅が大きく広がります。プレックスは、色々なルアーを投げ倒したあと、最後に中層～ボトムをじっくり攻めるクローザー的な使い方で、スレきった魚に口を使わせるのがコンセプトです。メガプレックスは強力なアピール力を生かし、1 投目から表層～中層を狙います。ダイナミックかつ不規則に泳ぐので、どうしても口を使わないランカー攻略の 1 本として制作しています。特に、ナイトゲームでの表層～ボトムレンジ攻略には、プレックスとメガプレックスのローテーションが強力な武器になります。



小堺氏が釣り上げたランカーサイズのシーバス。他のルアーで反応が無い、ここぞというタイミングで使うと思われ釣果に遭遇できることがある。まさに抑えのスペシャリスト的なルアーだ。

プレックスシリーズの使い方

巻くだけで派手にアピールし、不規則なトリッキー波動を出すプレックスシリーズの使い方は、どちらもタダ巻きが基本になります。

シーバスがボトム付近を意識しているときは、着底させてからチョンチョンと小さいリフトをさせながら、ワームのように使うと効果絶大です。ジョイントルアーの特徴であるフォール時の不規則に揺れ動くの



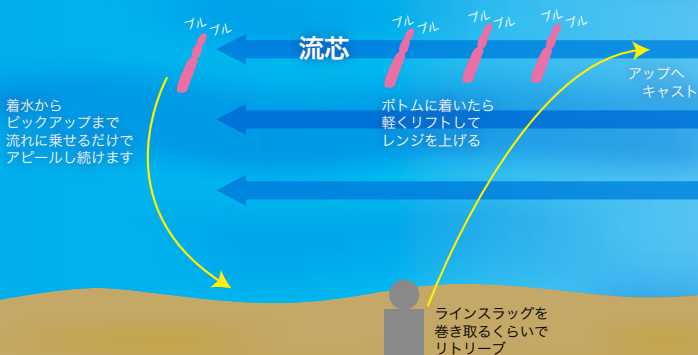
を利用した、大きなリフト&フォールも状況を選ばずバイトを誘います。

先にも書いた通り、3個の部品が連結したプレックスシリーズは、全ての部品が少しの流れの変化でも不規則に動くので、河川など流れのあるポイントではただ流すだけでオートマチックにアピールし続けるので、ドリフトでポイントを流していく釣りも面白いです。

最大の威力を発揮するのは、上記イラストにあるような、河川などでややアップにキャストし、流れの中（流芯）でナチュラルフォールさせながらシーバスが居そうなホットスポットをじっくり見せながら流す方法。これは、アップにキャストしてラインスラッグを巻き取りながら、流芯をタダ流すだけです。ボトムに触ったら少しリフトし、軌道修正してまた流すを繰り返すだけの簡単な操作ですが、このナチュラルかつアピールする動きが、ジョイントルアーの能力を最大に活かした使い方になります。

ジョイントルアーの使い方がわからない、使ったことがない方は、是非これをマスターして、プレックスシリーズの絶大な威力を体感して下さい！

プレックス&メガプレックスの使い方～タダ巻き編～



LONGIN. が贈るフリーペーパー

ロンジンマガジン Vol.8

弊社製品取扱店にて好評配布中!



話題の新製品、ウェイキーブーを大特集したロンジンマガジン最新第8号が配布中!

ロンジンのルアーがどうやって生まれるのかを、開発者の伊藤とテスターの田口氏にインタビューしたスペシャル対談である、ウェイキーブーの開発秘話は必読! 田口氏によるウェイキーブーの使用方法も詳細に解説しています。

ロンジンマガジンは無料配布! 弊社ルアー取扱店全店で配布しているので、店頭に無かった場合は店員さんに聞いてみて下さい!

(弊社在庫があれば、お店へ送らせていただきます)。

ロンジンマガジンのご意見・ご感想もお待ちしております (HP アンケートよりお送り下さい)。

ロンジンマガジン Vol.8

配布価格: ¥0 (フリーペーパー)

版型: A5 版 32 ページオールカラー

発行: 株式会社 LONGIN.

LONGIN. 製品取扱店にて無料配布中
(数に限りがありますので、品切れによる配布終了の際はご容赦下さい)



LONGIN

WE STRIVE TO Tokyo JAPAN since 2011

WEB MAGAZINE Vol.25

発行日：2017年10月12日

株式会社 LONGIN.